



# 北九州 PCB 廃棄物処理事業だより (No.3)

## 平成29年9月号

### ■安全と安心の処理を進める取組 ～ 安全大会開催 ～

事業所では、毎年定期点検を実施しております。定期点検に先立ち、作業を実施する各社の担当者も含め総勢93名が参加して「1期施設安全大会」を8月7日(月)に開催しました。

定期点検期間中に事故や災害を発生させないことを目的として、「安全第一」・「品質向上」・「工程管理」の3点を最優先にして作業を行うように、北九州 PCB 処理事業所長による訓示がありました。それを受けて、点検施工業者を代表して、JX エンジニアリング(株) 殿が決意表明を行い、参加者全員による安全スローガンの唱和で締めくくりました。

安全を最優先に作業を進め、9月8日をもって無災害で今年の定期点検を完了致しました。



全員で安全スローガンを唱和する

### ■北九州 PCB 処理事業所におけるトラブル未然防止対策の推進

リスクの高い作業等に関する対策の検討や、安全意識の向上に関する取組を進めるとともに、トラブル事例・再発防止策の水平展開を実施して、北九州 PCB 処理事業所におけるトラブルの未然防止対策を推進しております。

#### 1. 非常作業等における作業手順運用の見直し

- 非常作業(3H作業(初めて、変更、久しぶり))でのミス防止対策として、3H作業の手順を明確にし、ミーティングやシミュレーションを実施するなど、入念な確認を行うことでヒューマンエラー防止を図っております。
- JESCOは、上記3H作業を抜き取りで立ち会うことにより、その実施状況を記録・確認し、必要に応じてその場で指導・是正するなどトラブルの未然防止に取り組んでおります。
- 作業手順書の見直しを行い、分かりにくい点・改善点等を整理し、ヒューマンエラー防止を図っております。

#### 2. 設備変更等による対応

- ヒヤリハット等から設備の変更等を提案されたリスクのある作業や、ヒューマンエラーによる漏洩リスクの高い作業を対象に設備改造を行っております。

#### 3. 少量の漏れトラブル削減活動

- 更なる少量の漏れトラブル削減を目的として、新たに漏洩防止検討会を開催し、操業中の日常管理、並びに工事管理の見直し強化を図っております。

#### 4. トラブル事例・再発防止策の水平展開

- 他事業所のトラブルを自事業所の課題として捉え、原因の深掘りを行い、類似トラブルの未然防止を図っております。

#### 5. JESCO 及び運転会社・協力会社の全従業員に対する教育・研修

- 作業頻度が低い作業や漏洩リスクを伴う作業をリストアップし、手順書の教育を実施しました。この活動によりトラブル未然防止のための注意項目等の抽出を行うことができ、手順書への反映を行っております。
- 各部署持ち回りで環境安全に関する教育研修を毎月行い、安全意識の向上を図っております。

#### 6. 安全意識の向上に関する取組

- 過去のトラブル事象について、再発防止策等を示した掲示物を発生場所に掲示し、トラブルの風化防止を図っております。
- 他事業所の運転会社と情報交換を行い、他事業所の安全対策に関するノウハウを共有するほか、自らの取組を確認してもらうことにより意識の高揚を図っております。

## ■フォークリフト安全運転競技会を開催

～フォークリフト作業の安全確保と運転技能向上を目指す～

当事業所ではフォークリフトを使用する作業が頻繁にあり、安全確保の為に運転技術の向上が不可欠です。その為に、5月19日(金)「フォークリフト安全運転競技会」を開催しました。

競技は、出場者があらかじめ運転時間を自己申告し、その時間内で運転前の安全確認、パレット(空のペール缶積載)の積み下ろしを行い、所定のコースを走行して運転技術を競い合いました。

フォークリフトの運転技術を競う競技参加者



## ■「廃棄物資源循環学会シンポジウム」

／見学ツアーが開催されました。

7月25日(火)「PCB処理完遂への展望」をテーマに廃棄物資源循環学会のシンポジウムが北九州国際会議場メインホールで開催されました。

シンポジウムには466名が参加、北九州PCB処理事業所からは所長がパネラーとして登壇し、事業所の処理完遂に向けた取組について説明を行いました。

翌26日(水)シンポジウム出席者を対象に北九州PCB処理事業所の見学ツアーを企画し、37名の方が参加されました。



シンポジウム会場



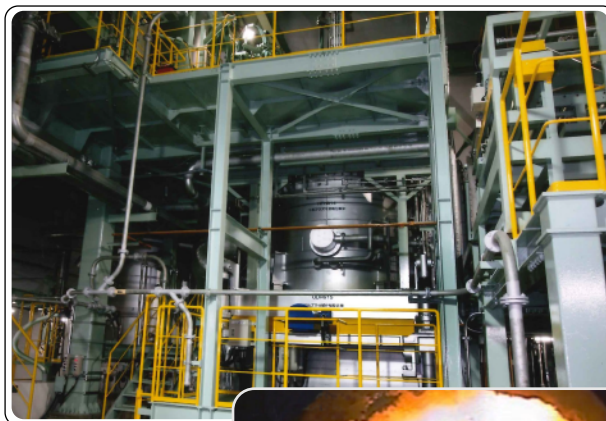
2期施設を見学する様子

## ■事業所あれこれ紹介

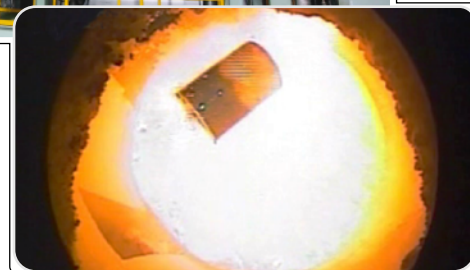
～プラズマ溶融分解炉～

JESCO 5事業所のうち、プラズマ溶融分解炉があるのは北九州PCB処理事業所と北海道PCB処理事業所の2事業所です。

プラズマ溶融分解炉では、安定器及び汚染物等をドラム缶やペール缶に詰め、中心温度15000℃のプラズマアークを照射してドラム缶やペール缶ごと溶融分解します。また、溶融浴(溶けた部分)は1400℃以上を維持し、確実にPCBを熱分解します。



プラズマ溶融分解炉



プラズマ溶融分解処理のモニター画面

## 【連絡先】

中間貯蔵・環境安全事業株式会社 (JESCO) 北九州PCB処理事業所

[所在地] 〒808-0021 福岡県北九州市若松区響町1丁目62-24

[連絡先] ☎093-752-1113 [HP] <http://www.jesconet.co.jp/facility/kitakyushu/>

アザラシの「びーちゃん」

